

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	NPO法人 ままち育てI&I	北海道札幌市	延藤 安弘	NPO法人まちの縁側育み隊 代表理事	住民参加のまちづくり	平成26年1月28日
	講演内容			研修成果		
<p>独特の語りで二冊の絵本を読み聞かせ、田園が都市化していくさまと、荒れた都市環境の中に森を育てていくさまを対比した。まちが変わっていくとはどのようなことか、概念として絵本でイメージを得てから、長野市西三才のまちの縁側育み活動や京都のコープラティブ住宅ユーゴートの事例を紹介し、人との関わり合いの中で生まれてくる縁と「わ」からふるさとづくりの条件を整理した。余市での取り組みへの参考として豊橋のいるかビレッジを紹介し、人のつどう場にとって肝要なことを学んだ。</p>					<p>参加者数:25名 「縁側づくりからはじめたい」「古くからの人は満足して暮らしているように見える。そういう人たちを新しい活動にどのように巻き込んだらよいのか」このように参加者から寄せられた疑問から、地域の課題を引き出し、まちそだてに必要な住民の役割を整理したり、日常につどいの場を設けるなど先例に学ぶ提案が挙げられた。これまでの「まちそだてのつどい」で発掘されつつある地域資源や人を、どのようにつないでいくのか考える上で大切な示唆を得たので、今後も参加者と共に実践に向け取り組みを続けたい。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
2	特定非営利活動法人 旭川 NPOサポートセンター	北海道旭川市	山崎 亮	株式会社 Studio-L代表 京都造形芸術大学教授	コミュニティデザイン～まちづくりのしかけとしくみ	平成25年10月13日
	講演内容			研修成果		
<p>地域課題解決のため、人と人とのつながりをつくるコミュニティデザインについて、講師が今まで全国各地で行ってきた地元住民を巻き込んだ取り組みの事例等を紹介した。住民参加型でまちづくりを進めるには、地域住民から直接話を聞き、①住民と一緒に合意形成しながら、②主体形成(実行部隊)をはぐむことが必要である事や、参加者の質問に対し、実例を挙げて、どのように参加者を集めるのか、またプレゼンする方法等について具体的に話された。</p>					<p>参加者数:30名 住民が主体となったまちづくりとはどういうことか、世代交代はどうしたら良いのかなどのほか、継続的な活動を行うためのしくみづくりやコミュニティを継続させる方法などについて学ぶことができた。また、地縁型、テーマ型の2つコミュニティを合わせて考え、どう地域活性化に結び付けていくかなどのヒントが見出された。講演会には、旭川および遠方からまちづくりに関心のある市民や団体、自治体職員が参加され、ミニワークショップでは各々想いを共有し、講演終了後も交流がみられた。今後学んだ事を活かして、地域の活動の担い手として活躍することが期待される。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
3	NPO法人 くるくるネット	北海道室蘭市	①原田 美織 ②浅野 久男 ③木村 福夫	①公益財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所 主任研究員 ②エムフォトワークス株式会社代表取締役 ③映像プロデューサー	平成25年度むららんIT勉強会 (地域の魅力を発信できる高度ICT人材育成)	平成25年7月13日 平成25年10月26日 平成25年11月9日
	講演内容			研修成果		
<p>①大分県動画配信サイト「めじろん放送局」の取り組み内容、動画発信の活用に関する講演および演習であった。地域住民を巻き込んだ動画発信の取り組みが、刺激につながった。 ②デジタルカメラの撮影方法ならびに撮影演習であった。撮影方法では撮影技術、焦点の置き方など、撮影実習では表現方法を学んだ。撮影による地域活性化事例を学び、刺激へつながった。 ③ビデオカメラの撮影方法ならびに撮影実習であった。ビデオ映像の作り方、企画の考え方から、撮影技術表現方法を学んだ。映像の活用方法の取り組みを学び、刺激につながった。</p>					<p>参加者数:70名 計3回の講演会、ワークショップにおいて、ICT情報通信技術を生かした地域の魅力を発信できる人材を育成できたほか、ICTリーダー同士のネットワーク構築が図られ、インターネットの積極的な利活用によって地域の活性化に貢献することができた。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
4	特定非営利活動法人 桜が丘ひびくクラブ	北海道釧路市	山崎 律子	株式会社 暇問題研究所 代表取締役	心も体もスッキリ体操講演会	平成25年10月1日
	講演内容			研修成果		
<p>午前9時30分に受付を開始し、10時より司会の開会の辞とともに、NPO法人桜が丘ひびくクラブの理事長の挨拶をして山崎律子講師のプロフィールと続き、講演に移りました。資料に基づき、日常生活で大切なのは、頭の元気、体の元気、心の元気、元気の構成を説明し、3つの元気をバランスを取ることが大事で日常においては、1. 体を動かす2. 趣味を持つ3. よく笑うことを忘れずに生活し、具体的に説明がありました。 姿勢についての講演と実技があり、出席者2人組でお互いに姿勢をチェックし、正しい姿勢・歩行について実技がありました。日常で意識して正しい姿勢・歩行を実施することが大切で毎日1回でもすることを忘れずにしましょう。と強調していました。出席者全員で指折り、グーバーの後出しジャンケンをし、頭で考え手を動かすことが、健康保ためにすごく大切である。東京では、講師が全体的に説明し、その後2人組になり、実技を行った。歌いながら手足を動かすのは、青い山脈と365歩のマーチは、一章節ずつ実施し、CDをかけて曲に合わせて3回行いました。中間で休憩をはさみ、11時55分より山崎講師への質疑応答があり3名が質問し、開会の辞の後、講演会は終了しました。</p>					<p>参加者数:76名 高齢者の平均寿命が延びたことにより、寝たきりにならない為にも、日常生活において、いつでも、どこでも、簡単にできる体操や正しい姿勢・歩行を意識するだけで、心と体を健康にする。特に家庭や教室、職場、町内会などで簡単にできる体操を実施することで、自分自身や地域の為に利用・活動ができる講演・実技でした。 さらに、今回の講演会を通じて参加者の元気で明るい地域づくりに向けた、意識と習慣づけができた。地域に住んでいる一人ひとりが高齢になっても、自分の事が自分でできる生活を維持するために、今回の講演・実技は、有意義で、さらに元気で明るい地域社会づくりの大きく貢献・手助けになった心も体もスッキリ体操講演会であったと考えます。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
5	NPO法人 るもいコホートピア	北海道留萌市	青山 由美子	有限会社ユーデルワイス総施設長、主任介護支援専門員、北海道グループホーム協会コーディネーターアドバイザー	認知症フォーラム「認知症の理解と接し方」	平成25年11月2日
	講演内容			研修成果		
<p>1部の講演会では認知症に対する理解を深めるため、加齢による物忘れと認知症による物忘れの違い、認知症の症状や接するときの心構え、認知症の人の心理の世界、ご家族の気持ち、また、地域でご本人やご家族を支える重要性について、宮城県南三陸町や北海道北見市での取り組み事例の講演を行う。2部のグループワークでは7人～8人のグループに分かれ、「ご自身やご家族が認知症と言われたら、地域にどのような支援を望みますか」をテーマに各テーブルの司会者を中心に全員の意見を出し合い、グループ発表を行う。 最後にまとめとして、講師の青山氏から、地域で認知症の方々が助けてと言いやすい環境を官民一体となって整えていく必要性を訴えた。</p>					<p>参加者数:43名 講演会では認知症の症状や接し方を具体的に学び、理解を深められた。講演会後のグループワークにおいては、一般市民の方、民生委員、ケアスタッフ、認知症のご家族、それぞれの立場の方々が認知症というテーマを基に、地域での支援の在り方について、支える方法を考えるきっかけとなった。また、活発な意見交換が行われ、課題が浮き彫りとなった結果、いつでも相談できる窓口や家族会が必要で、地域住民へ認知症に対する理解を深める勉強会が必要だと、検討課題が整理された。 今後の展望として、家族会設立に向けて会議を開催していく方向となり、協力者を募り来年度の発足を目指す予定。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	一般社団法人 ちとせタウンネット	北海道千歳市	①山国 秀幸 ②平形 有子	①エグゼクティブ・プロ デューサー ②認定NPO法人待学園 スクオーラ・今人職員	「ガレキとラジオ」上映会とそれに関する講演会	平成25年10月12日
	講演内容			研修成果		
映画「ガレキとラジオ」の制作時、震災の映画を撮影するに至った背景と、その心情と葛藤、完成までの道のり、映画上映による被災地支援を行う際に考えなければならない課題や、それを解決していく方法などについてお話していただいた。 また、被災した人や被災地周辺で支援活動続ける人の現状を紹介し、物理的にも精神的にも復興が終わっていないという現状のなかで、復興支援を継続することの重要性について語っていただいた。					参加者数:230名 映画製作者と出演者による講演と、被災地を題材とした映画の上映を行うことで、被災地とそこで暮らしている人々の現状を知ることができ、そこに暮らす人、かかわる人の物語はそれぞれ続いている事に気づくことができた。そして、3月から半年たった今、徐々に薄れつつある災害への意識と被災地への思いを、会場にお越しいただいた方と共に新たにすることができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	石狩青年会議所	北海道石狩市	藻谷 浩介	日本総合研究所調査部主 席研究員	「10年後・20年後・30年後の石狩」	平成25年9月15日
	講演内容			研修成果		
過去・現在・未来の石狩について、主として人口動態予測の観点から、他地域との比較も交えながらわかりやすくお話していただいた。まちのあり方について時間軸を意識して捉えなおすことにより、景気変動等の現況にとらわれすぎない、「俯瞰する視点」の重要性をご教示いただいた。また、新たな社会構築のあり方について、エネルギー政策などの具体案も織り交ぜながらご講演いただいた。					参加者数:100名 人口動態予測とその影響に基づいたまちづくりの第一人者とされている藻谷浩介氏をお招きし、近未来の石狩について人口予測の観点からお話をいただいたことにより、地域の将来像についての認識を深めることが出来た。これからのまちづくりについてどんな夢を描くにせよ、まずは足元のデータを認識することが重要であり、多くの参加者が共有する機会を得たことは貴重な研修であった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
8	愛別自然エネルギー研究会	北海道上川郡 愛別町	①野坂 卓見 ②日下 哉 ③春日 隆司	①株式会社エネコープ代表取締役 株式会社新エネルギー開発代表取 締役 ②北海道自然エネルギー研究会事 務局長 北海道教育大学岩見沢校 専攻非常勤講師 ③下川町環境未来都市推進本部長	愛別と自然エネルギー	平成25年11月9日
	講演内容			研修成果		
野坂卓見氏 演題「地域循環型社会における自然エネルギーの役割」 ～バイオマス活用を柱として～エネルギーの使用を抑えるコープさぼるの取り組み、電気使用の種類を分類し、最大電力使用量を下げる実例・組合員使用の家庭用食用油をエタノールに変換して自社使用の輸送車両の燃料としている。また、発電用大型エンジンの開発では日本メーカーより韓国など性能が良い。 春日隆司氏 演題「地域資源を活かした地域づくり」 ～環境未来都市しかもかわの挑戦～ 下川町のバイオマス熱エネルギー活用の現状を紹介、50年前より町有林面積を広げ森林育成に注力し、現在その森林から算出されるパルプ材・林地残材を熱エネルギーとして、使用している。地元木材使用を促す仕組み・炭素本位制の導入などの取り組みを紹介。 日下哉氏 演題「自然エネルギーとは何か」 ～愛別町における自然エネルギー活用の可能性～ 太陽と地球が生み出すクリーンなエネルギーをどのように得るか、それぞれの地域の自然環境を活かす為に、地域住民が意識を持ち行動を起こすべきこと。					参加者数:48名 来場者の多くは環境・エネルギーに関心を持つ方々であった、と思われませんが、さらに詳しい内容、今まで報道で知らされていなかったお話もあり、感心されていたと思います。 また、自然エネルギーを取り入れていくための困難な部分を解決していくための考え方・捉え方のお話もあり、自然エネルギーを活用することの重要性を感じたと思います。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
9	えりも花ファンクラブ	北海道幌泉郡 えりも町	三浦 忠雄	日高の森と海を語る会 会 長	襟裳岬をはじめとする町内全域、および日高管内 における自然植生の変化を調査し保全の道を探 る。	平成25年8月18日 平成25年9月8日 平成25年10月20日
	講演内容			研修成果		
8月18日は襟裳岬、百人浜において主に秋の七草の開花状況の調査。9月8日は浦河町杵臼周辺の植物相を確認しながら、エゾトウチソウの開花状況の観察、その後、シュマン林道においても同様に観察を実施した。10月20日はえりも町目黒、豊似湖周辺の樹種の違いによる紅葉の仕方などについて研修した。いずれも決められたコースを歩きながら三浦忠雄先生の植物についての解説を聞き、また、それぞれが図鑑などで確かめながら、コース内の植生、生育状況などをこれまでの調査などと比較し、希少種の盗掘による痕跡はないか、エゾシカによる食害がどの程度進んでいるかなど、地域の今の状況を確認した。					参加者数:計52名 秋の七草のなかでは希少種であるキキョウ(絶滅危惧VU)が激減している。愛好家の多いキキョウは盗掘の被害にあう危険性が高い。また、エゾシカが好むキキョウ科でもあり、減少に至る因子が高い。しかし、今回の調査では人的被害か、動物による食害かのどちらかは不明。継続して観察していく必要がある。その他で、オミナエシの開花が確認できなかった。浦河町で実施したエゾトウチソウ(日高山脈固有種)の生育に変化はなかった。シュマン林道では群生していたヒダカアザミ(日高山脈固有種)が、林道の草刈りによるものと思われ絶滅状態。新しいものではチドリケマン(北海道固有種)を発見した。 10月20日えりも町目黒、豊似湖の観察は暖かい日が続いたためか、紅葉が遅れ目的の樹種の違いによる紅葉の進み方の確認はできなかった。今回の観察会では原因を特定することはできなかったが数種類の植物で減少、新しく1種、発見できた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	是川地区振興会	青森県八戸市	桂 小文治	落語家(真打)	町内会員相互連携で安全安心を守りましょう	平成25年11月17日
講演内容			研修成果			

平成25年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

10	<p>八戸でも一人暮らしの高齢者世帯が多く、これまでに孤独死者も多くなっている</p> <p>と聞いている。これを少しでも防ぐには、町内会員の連絡を綿密にし、情報網を築く必要がある。</p> <p>行政だけに頼っている情報は伝わりにくい。隣組的なグループ単位で、お互いに気配りすることが絶対必要である。</p> <p>高齢者はとくに引込み思案になりがちなので、今日の様な地域の催事や祭り行事等に積極的に参加することにより、情報交換や人々との触れ合いもできる。</p> <p>自分の83歳の父親も八戸で一人暮らしをしており、実に心配であるが、幸いに現在は元気で町内の人達と交流しており、お互いに連絡を取り合っているとのことと少し安心してはいる。</p> <p>後半の講演では「俵豆豆腐」という落語の一説を語り、貧困の人助けをして、後に自宅が火事で全焼し無一文になった時に、逆に助けてもらった人情話をして聴衆に感動を与えた。</p>	<p>参加者数:105名</p> <p>是川地域では、高齢者特に一人暮らしの見守りの組織がなく、必要性を感じておいた時に、今回の講演会で各町内会で組織づくりに気運が芽生えたと思われます。特に隣組(班毎)による連絡網の構築が、今回の講演会には実に有効であったとの事です。</p> <p>当地域では種々行事に参加者が少なく、人集めに非常に難儀しますが、今回は一流の落語家の講演とのことであり、PRを徹底的に行ったこともあって、100人超の聴講者が出席してくれたので、成果は充分であったと思われます。</p> <p>尚、講演会の休憩時に、本講演の内容や研修成果は、貴協議会に報告する旨を発表し、講師並びに聴講者の承諾を得ました。</p>
----	--	--

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	花巻宇宙少年団育成会	岩手県花巻市	①高柳 雄一 ②小定 弘和	①多摩六都科学館館長 ②(公財)日本宇宙少年団本部コーディネーター	宇宙っ子の育つまちづくり(子どもの夢と産業と社会)	平成25年10月12日
	講演内容			研修成果		
11	<p>-高柳氏講演内容-</p> <p>○宇宙へのいざない一君はなぜ宇宙に興味があるの?/夢をかなえる方法はいろいろある(学者研究者になる、技術者になる、宇宙飛行士になる、文学からも宇宙に接することができる...)</p> <p>○宮澤賢治のまち花巻には宇宙を見る風土がある。そんな環境の中に居る皆さん、いろいろな見方をおぼえ、自分なりの夢に向かって進んでほしい。</p> <p>○大きなものを見ることと小さなものを見ること一宇宙の不思議を知るのに素粒子を調べるといふ方法がある/岩手県は、国際リニアコライダーの誘致を計画しているが、素粒子を調べることは、宇宙の究明にもつながる。</p> <p>-小定氏講演内容-</p> <p>○宇宙飛行士とは一宇宙飛行士たちはなぜ宇宙を目指すのだろうか?/地上と宇宙の違い/違う環境で生きてくるもの/宇宙飛行士になるには/宇宙飛行士の条件</p> <p>○体験一宇宙飛行士としての資質を見る「白ジグソーパズル」</p>			<p>参加者数:42名</p> <p>-高柳氏研修成果-</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達は、自分達のまちの素晴らしさを改めて知り、自分の夢をもつことの大切さ、またそれに向かって進む楽しさに気付いた。 参加者で岩手県のILC担当者は、誘致を進めるに当たり、子供達への啓もう、そこから親や大人への波及は、大変参考になったと研修成果と感想を述べている。 <p>-小定氏講演内容-</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供の感想一宇宙飛行士になるためロシア語を勉強しようと思った/僕はロボットを作りたいから宇宙飛行士の条件に合わなくてもいい/私は看護師になりたいから星空の事をもっと知りたい/JAXAに入るため理系の勉強をしたい。 参加者の花巻市賢治まちづくり課担当者、同国際交流室担当者は、行政が行うフォーマル教育と民間が行うノンフォーマル教育のそれぞれの意義を知り、市民の参画や協働の参考になったと感想を述べた。 		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	高松第三行政区ふるさと地域協議会	岩手県花巻市	松岡 公明	社団法人JC総研理事	「安心して暮らせる、未来に希望の持てる高松第三行政区」~これからどうなる地域の農業、どうする私たちの暮らし~	平成26年1月19日
	講演内容			研修成果		
12	<p>演題:「これからどうなる地域の農業、どうする私たちの暮らし」</p> <p>講師が用意したレジュメをもとに講演をおこなった。講演内容(抜粋)は下記のとおりである。</p> <p>①地域づくりに関するビジョン・戦略づくりの大切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変革の時代において「自分の考えがない」「自分の夢がない、語れない」ということではないのか? ・ビジョンで打ち出す戦略は、集落・地域の共通言語になり、地域住民の気持ちや意見を束ねる接着剤の役割を果たすものでなければならぬ。 <p>②農山村の活性化における地元学のスモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の総点検運動をやろう。「ないものねだり」から「あるもの探し」、そこからないモノ・そこしかできないコトが持つ価値づくりにつながる。 ・具体的な地域づくりの実例 ・徳島県上勝町の「はっぱビジネス」 ・「つまもの」事業による町おこし。毎日コツコツと働くことでお金を稼いで病気がらず、元気な高齢者が多い。「産業福祉」のモデルである。 ・島根県出雲市の「有限会社グリーンワーク」 <p>この集落営農法人の特色は、営農関係以外に「地域貢献型活動」に取り組んでいること。「高齢者外出支援サービス事業」や「灯油の個別配達業務」などをおこない、地域住民のライフラインを支えている。</p> <p>④農政改革の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年後に生産目標数量配分の廃止 ・米の直接支払いの減額 ・日本型直接支払制度の創設 ・飼料・米粉用米の交付金 <p>※農政が変わっても対応できる住民参加型の組織が必要である。</p> <p>⑤地域のブランド化</p> <p>地域ブランドとは「地域産の商品・サービスのブランド化」と「地域イメージのブランド化」を結びつけることで、他にない付加価値を与え、地域外の資金・人材を呼び込むという好循環を生み出し、持続的な地域経済の活性化を図ることである。</p> <p>講演の最後に「自利(エゴイズム)」と「利他(他者への思いやり)」という言葉を用いて、地域の人たちが協同することで利益が守られるということと理解するところから第一歩が始まる。と締めくくった。</p>			<p>参加者数:65名</p> <p>①参加者が当初の予定(50名)を上回る65名に達した。理由として考えられるのは、主催者の「地域の抱える課題を何とか解決したい」という思いが伝わったからだと思う。参加者の内訳は地域内52名、講師(松岡公明氏)が来られることを知り地域外が13名(県内12名、秋田県1名)であった。</p> <p>②参加者の主な感想は次のとおりである。</p> <p>「講師は農政問題にも詳しく、農村の活性化のことも具体的に話してくれ、地域に明るい光が射してきたような気持ちになった」「女性や非農家の若者にも分かりやすく話してくれてうれしかった」そのほかにも「来て良かった」「もっと多くの人に聞いてもらいたかった」等の感想が主催者に寄せられた。</p> <p>③今年度は、当協議会が『岩手県元気なコミュニティ特選団体』に認定された年でもあり、今回の講演会が地域課題(過疎化・高齢化や農業所得の減少など)の解決と今後の活性化に大きく寄与したものと考える。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	黒沢尻東地区自治協議会	岩手県北上市	畑中 美耶子	フリーアナウンサー・方言指導家・演出家	方言は文化	平成25年10月21日
	講演内容			研修成果		
13	<p>話し言葉は中央と地方の差がなくなり、文化・風習が画一化され地方の伝統や風習・方言といったものが少しずつ失われつつある。しかしながら、日本語の表現や発音の美しい方言は豊かなブランド言葉であり、その土地の風土・気候・文化・風習などから生まれたものである。方言は恥ずかしい言葉ではなく、文化的な言葉であり伝承してほしいものである。</p>			<p>参加者数:72名</p> <p>方言は生活になくてはならないことばであり、方言によって人と人の繋がりを深くする。若者たちの発音から消えかかっている方言を日本語の美しい音、濁音と鼻濁音を使い分けてより豊かな表現で方言を使っていけたら良い。</p> <p>方言は恥じることなく文化的な言葉であることが理解できた。今後、方言の伝承活動を通じて世代交流が図られ、コミュニケーションを図る手段となりえる。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	二戸市ナニヤトヤ保存会	岩手県二戸市	皆川 洋一	深萱の昔とうふ工房 代表	「いなかには宝の山」	平成25年9月15日

	講演内容	研修成果
14	<p>岩手県藤沢町の小さな山里深萱(ふかがや)集落に陶芸家に移り住み、彼らを核に地域を発展させようとする若者たちが動き出し、その結果として町が施設を作り地域に運営を委ねた。その活動の中からおばあさん達が田舎料理を提供するグループをつくり、それに刺激されたおじいさん達が元気になり、若者が新しい活動を始めた。そのような活動展開が全国的に評価され、全国農村アミニティコンクールや豊かな村づくり運動で農林水産大臣賞を受賞するまでの地域の歴史、そして一人ひとりを表現豊かに講演していただいた。また、農家伝承の豆腐作りの技を生かして深萱の昔とう工房を設立し、首都圏や仙台で豆腐販売を始めるまでの汗と笑いの話。</p>	<p>参加者数:110名 当保存会は、昨年、市内上野(かみ)集落の活性化を図るため上野自治会と協力し、約40年ぶりに「まきばのまつり」を復活させた。その祭り開催のため地域が一丸となって取り組んできた盛り上がりや別の活動にも生かして更に地域の活性化に繋げたいと考え、今回の講演会を開催した。 今回お願いした講師の皆川洋一氏は、地域づくり活動やイベントを多く行っており、皆川氏がこれまで取り組んできた事例を講演していただき、講演会参加者はまちづくりのノウハウについて楽しく学ぶことができ、これからの取り組みに生かしていきたいと考えている。また講演後、講師を交えてより深い話し合いができた。</p>

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	不動地区食と農の活性化協議会	岩手県紫波郡矢巾町	志村 尚一	(有)ウィルビー代表取締役	不動地区の資源と人材を生かした活力ある地域づくり	平成26年1月29日
	講演内容				研修成果	
15	<p>1.地域の未来がなくなる・・・東日本大震災の被災地で起きていること 不安→不満→批判(ねたみ、ひがみ、そねみ)→あきらめ 2.地域全体で課題を「他人事」にしない地域に未来がある。 結果として子どもたちが元気になる。 3.「意識が変われば行動が変わる、行動が変われば成果があがる」とよく言うが、成果が見えないのに意識を変える人はいない。 4.ビジョン(あるべき姿)の大切さ ビジョンと現実とのギャップが課題。「ビジョンを絶対達成するんだ!」という意識と行動が未来を拓く。 5.地域づくりと産業振興が結びついた西和賀町の事例 西和賀には三つの本物がある・・・ ・「風土が生んだ本物の食材」、「加工技術」、「人」 ・「西わらび」が3年間で3tから11t(引き合い30t)へ ・「大根の一本漬け」が3年間で500本から20,000本へ ・「納豆汁の素」が3年間で500個から10,000個へ 商品の高評価が「西和賀町ブランド」へつながった。 6.不動地区のビジョンづくり ・「こうなりたい」という気持ちを形に・・・ 今日集まっている人たち(高齢者)が若者や子どもに伝え、地域に興味を持ち、どうしていくかをみんなで考える。 ・ビジョンに向かって「絶対達成する」という気持ちが不動地区の未来を拓く。</p>				<p>参加者数:52名 ① 講師の志村氏には、地区の抱えている課題について具体的な実践例を交えて指導していただいた。特にも「ビジョン」の必要性を強く話され、協議会としても「不動地区活性化ビジョン」の策定に向けて今後活動していきたい。 ② 講演の中で紹介された西和賀町の地域づくりと産業振興について、平成26年度に協議会として視察研修に行くことにした。 ③ 講演には、地区内の他に町内、町外からも参加された方も多く「来てよかった。早速仲間と出来ることから始めたい」「講師の話を書きたくてよかった。声をかけてくれて感謝したい」等の感想が出された。協議会として研修会を定期的に開催していきたいと考えている。</p>	
	講演内容				研修成果	
16	いろいろのある集会所 田楽庵	山形県村山市	本間 正義	東京大学大学院 教授	TPPを学ぶ！農業経営者の対応と地方都市の活路	平成25年11月10日
	講演内容				研修成果	
	<p>TPP問題に関する関心は高いように見えるが、本質は必ずしも理解されていない。TPPで重要なのは投資の自由化。農業以外の関税はGATT、WTOを通じて十分低下。農業の関税撤廃は、期日をなるべく遅くし、そこまでする道筋を工程表で示す。撤廃まで20年αなら10年後でも1kg当たり170円の関税は維持できる。77%とよく書かれるが、実際は341円、280%である。コメの生産調整廃止が決まっている。 農業者の経営対応。関税削減・撤廃で農産物の価格は下がるが、経営改善の工程表を自ら作成。農地集約の方法を集落で対応か、担い手の存在と農地中間管理機構の活用。中山間地ではモノづくりの原点で付加価値を。農工商連携、6次産業化に向けて、農業と非農業部門のコラボが有効。 地方都市の活路。地域資源を見直し、絶対優位でなく比較優位が重要。市街部と農村部で危機感の共有。都市と農村の交流でモノづくりの本質を学ぶ。価値観のものを直し、一体化した地域づくり。特産品単品でなく、複合化・産業化。フードバレー構想。「農村経営」の発想で地域マネジメント。都市の知恵と人材の活用を計れ。</p>				<p>参加者数:140名 グループ30周年の記念事業であり、催事の多い時期にも関わらず市中心部の会場で、期待数に近い参加者があった。参加者の多くは地域のオピニオンリーダー的な人々である。 シンボ形式ではないが、TPPについて事前学習その他情報を持つ業種代表の主として反対意見の表明。必要・賛成論を説く講師の講演、活発な質疑応答、そして聴講後組織代表者の所感のあいさつを含め3時間を超える学習で、TPP問題に対する内容の理解は深まった。 農業者経営者の対応並びに地方都市の活路については、有益な示唆ではあるが、聴講者が理解を深め、共感し具体的な取り組みに動くためには、それぞれのグループや地域組織で重ねて論議される必要があると考える。</p>	
	講演内容				研修成果	
17	特定非営利活動法人 シャローム	福島県福島市	保住 将文	彫刻家 チャバス州立芸術家大学准教授	彫刻家「保住将文氏」と創る蒼龍伝説、石彫りワークショップ。	平成25年8月9日 平成25年8月10日 平成25年8月11日
	講演内容				研修成果	
	<p>ふくしまスカイパークのシンボルモニュメントの蒼龍伝説という石の彫刻に毎年新たなレリーフを保住氏の指導で行うワークショップを行ってきた。今年で8回目終了した。市民公園づくりを目指し始められたワークショップを通して身近に創造的な芸術文化に触れることができる場となっている。楽しく関わり石の彫刻の話を聞き製作に関わっていくことができ、来年の再会を楽しみにしながら「石彫りワークショップ」は終了した。</p>				<p>参加者数:60名 三日間天候にも恵まれ、野外での石彫りワークショップは順調に終了することができた。9日(金)は、障がい者施設の人たちが野外活動として参加し、10日(土)11日(日)は、施設が休みとなるため9日に興味を持った人たちの自主参加となった方が多く3日間参加され、これに地域の子供達、ボランティアの人たちも加わり終日楽しく製作が行われた。角の石膏での型どりも行った。</p>	
	講演内容				研修成果	
	特定非営利活動法人 ウェブストーリー	福島県郡山市	河井 孝仁	東海大学文学部広報メディア学科教授	地域を元気にする情報発信とは～ソーシャルメディアも活用して～	平成25年10月10日
	講演内容				研修成果	

平成25年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

18	1. ソーシャルメディアは人間交際のツールである。 2. ソーシャルメディアは簡単に褒めることができる特徴がある。 3. 地域は「構造」ではないか。 4. つながりやを結び直すには、「見える化」、「ありがとう」（相互認知・興味関心）、「共感」等が必要であること。 5. 地域を結び直し、発火させる編集者「地域職人」の提案などがありました。また、地域を変えるのは、「ワカモノ、ヨソモノ、バカモノ」の視点が必要とされることの指摘がありました。	参加者数:80名 事前予約80名でしたが当日来られた方もおり、郡山市民、行政関係者、市議員、企業、NPO関係者等多数の方の参加によって大盛況でした。質疑応答の際も質問が途切れることなく対応に大わらわでした。 郡山市では市長自らフェイスブックを開業していることもあり、フェイスブックについて多くの市民の関心がある中で、この講演会はタイムングが良かった。また、福島民報新聞社、福島民友新聞社で事前告知記事の掲載、当日取材があり翌々日に講習会の実施記事と合計4回報道させていただきました。
----	---	---

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
19	(財)立教志塾	福島県白河市	櫻井 よし子	国家基本問題研究所理事 作家	この国のかたちを考えるー八重の桜と美しい日本ー	平成25年11月24日
講演内容					研修成果	
日本はあらゆる困難から逃げずに、時代の変化を捉えて憲法の解釈変更や改正に向けて国民的議論をさらに進めて行くべきで、憲法改正、集団的自衛権の行使容認は、尖閣諸島問題など眼前の危機の解決のみならず、日本の国家基盤の立て直しに欠かせない。真の目標は、憲法改正を達成して戦後体制を終わらせることで、日本国の存続に責任を持てるのは日本だけであることを肝に銘じなければならないなど。					参加者数:550名 多くの白河市民に対して、日本を取り巻く世界がどのように変化しているかを、具体的な話や新聞等で取り上げられている時事問題を織り交ぜながら明快に解説してくれたことは、今後日本国家はどこを目指し、どう考えていけばいいのかが示唆してくれた。また著書にサインをしながら、一般の人の質問にも丁寧に答えてくれたことで、あまり関心を示さない市民も社会問題に対する意識が高まった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
20	青嵐荘エコ・リサイクル委員会	茨城県古河市	安梅 勅江	筑波大学大学院教授	第2回 社会福祉法人から発信する地域づくり講演会	平成25年10月26日
講演内容					研修成果	
地域づくりを「活き活きとした生きる力(活性力)・きずな育む力(絆育力)」の視点から「エンバロメント科学入門エンパ・プロになろう」をテーマに約10名9グループでワークショップが行われる。3グループずつ10歳、40歳、70歳の視点で地域について考えるという想定で行われ、年代に応じ「こういう地域であってほしい」、「そのために何が必要か」を考え、意見を出し合う。出された考えや意見をグループごとに模造紙にまとめ、発表をすることで、共有を図る。 また、青嵐荘エコ・リサイクル委員会からは「活動の歩み」と「つながりooふくしま協力プロジェクト」の実践報告を行った。					参加者数:92名 実施後のアンケートにおいて、回答いただいた30名のうち、約80%の方に「良い」との評価をいただく。 講演(ワークショップ)では、「わかりやすく理解できた」、「60歳代の人生に参考になりました」、「単なる講演でできるだけではなくワークショップ形式で体得することができた」などのご意見をいただく。それぞれ違った背景の参加者が、共に地域のあり方について考え、楽しみながら学べる講演となった。 エコ・リサイクル委員会活動報告では、当法人の地域づくりの取り組みが「地域貢献」、「地域との協働実践へ発展」、「利用者中心の活動」であることや「地域の中核になっている」ことなどを感じていただけた。 今回の講演・活動報告が、少なからず参加された方々の地域づくりに対する意識の向上につながったのではないかなと思う。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
21	茨城遊びのサポーター	茨城県ひたちなか市	矢代 貴司	塾講師・子どもの遊びの指導者	子どもの遊びスタッフ養成講座(2回目)「読み聞かせ」"ボディパーカッション"	平成25年10月27日
講演内容					研修成果	
当団体では、指導が難しい各種の「読み聞かせ」や「ボディパーカッション」の指導を賜りました。 ①読み聞かせ:肉声の語りかけをどのように推進するか ・本の読み聞かせ、紙芝居、語り、朗読等で手法が異なるので配布資料に従い丁寧に研修を受ける。 講師より補足説明があり ・「本の読み聞かせと紙芝居」と「語り、朗読」は同じ語りでも口調が違う・・・ ・視聴者(子ども)に、「これは何かな?」と語りかけるような書籍を選定するように薦められる。 ・大きな発声を避けて、視聴者(子ども)に優しく語りかけることも肝要。 ②ボディパーカッション: 手拍子、ひざ打ち、足踏み、お尻を叩く等、体を打楽器にして、リズムで動く音楽ですが、指導を受けた受講者全員楽しく展開できました。					参加者数:44名 少子化社会で育つ児童の環境は、親の共働き等で幼児期から家族関係の絆が失われており、子供達独自の自立した遊びが少なくなってきました。 今回の研修で得られた「読み聞かせ」や「ボディパーカッション」は、体で体験する遊びであり、親子の絆をつなぐ為にも幅広く運用されます。 当団体では今まで無かった、新たな遊びのポケットの育成を図ることができました。 特に、県央地域市町村の放課後児童クラブ指導員が、新たな遊びの展開ができること喜びを表明してくれました。子供達の遊びの幅が広がり、地域活性化につながると確信します。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
22	宇都宮市河内地区連合自治会	栃木県宇都宮市	佐藤 良子	東京都立川市大山自治会長	人が人に優しいまちづくり	平成25年10月24日
講演内容					研修成果	
人が人に優しいまちづくりを構築するには、住民に必要とされる自治会づくりが重要である。大山団地住民のニーズに合った自治会の再生計画、市(住民主体の自治会)、能(能力、技術者の人材バンク)・工(工夫、アイデアで企画運営)・産(コミュニティビジネスで有効活用)を10年かけて実行し、「人が人に優しいまち、必要とされる自治会」【ゆりかごから墓場まで】をモットーに団地住民の相談窓口の開設(24時間対応)、「終焉記録ノート」の普及活動、みんなでお見送りをする自治会葬の実施や見守りネットワークの充実等、自分達のできる事は、自分たちで行動する大山自治会の10年に亘る自治会活動の取り組みについてご講演いただきました。					参加者数:100名 今回の講演は、河内地区自治会長、自治会役員、まちづくり協議会会員、おおいちよう河内の各老人クラブ会長等が聴講しました。 少子高齢化の進展やライフスタイルの変化等により、自治会会員の減少が続く、地域の活力が減退している中で、住民が何を自治会に期待し、何を求めているのかをしっかりと把握して、住民が望んでいる住みよい地域づくりを目指して様々な活動に取り組む重要性を学びました。さらに、様々な活動には人と人とのつながりを大切にし、自分達のできる事は、自分たちで行動すること、改めて認識するとともに、これから行動に取り組む出席者の意識の向上を図ることが出来ました。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	NPO法人 かめま市民活動サポーターズ	栃木県鹿沼市	田村 太郎	一般財団法人 ダイバーシティ研究所 代表理事	まち変フォーラム	平成25年11月24日
講演内容					研修成果	

23	<p>・鹿沼のまちづくりで大切なのは電車やバスで素通りしていく人たちがどうやって鹿沼に降りて1円でも多くのお金を落としてもらうか。鹿沼は可能性のある町。</p> <p>・地域を元気にするビジネスのモデルには神社型ビジネスモデル。神社には歴史があり、地域にとってシンボル。入場無料だけどそこへいくといろんなものが売っている。(商売が繁盛する、病気が治るお守りなど)。</p> <p>・どうしたら地域で仕事が生まれるかを考える。皆で一生懸命工夫して一生懸命仕事作っているところが生き残ると考える。</p> <p>なんとなくまちを変えたいとかではなく、何かに困っている人のために何ができるかを考える。困りごとを全部解決するのは難しい。まず何かを絞る必要がある。</p>	<p>参加者数:65名</p> <p>これから重要になってくるのは共助。共助はボランティアだけではなくなかなかできないので、これからは仕事にしていける必要がある。</p> <p>鹿沼という地域でどんなニーズがあるかを考えるとよくわからないが、地域というよりはもう少し絞って共通の課題を持つコミュニティとして考える。そうすればどんなサービスを提供するか、どんな仕事にお金を払ってもらえるのが見えてくる。誰のためのサービスかわかりやすいためお客さんが来やすい。鹿沼にどんな商品とサービスがあればお金を払ってもらえるか具体的に考える必要がある。</p> <p>・鹿沼だけではなく、全国的にも危機的状況(高齢者が多くて若者がちょっと少ないという状況を乗り越えないという厳しい状況)。この危機的状況を乗り越えるにはまちづくりが必要で仕事づくり(コミュニティビジネス)は重要となってくる。鹿沼の中だけでお金を循環させるのは厳しいので外からお金を入れる必要がある。鹿沼の外からどうやってお金を稼ぐか考える上で参考になるのは最初に述べた神社型ビジネスモデル。地域を守るには、礼儀ある中でいろんな方法を使ってお金の入り口を作る。企業、行政、NPOなど地域のいろんな担い手と連携しながらやることは重要となってくる。</p>
----	---	--

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
24	特定非営利活動法人 いろは企画	栃木県真岡市	渡邊 美洋子	横浜ワイン&チーズサロン エスパス プレジール 代表	とちぎのチーズを味わおう!	平成25年10月22日	
	講演内容				研修成果		
<p>一般的なナチュラルチーズ7タイプの説明(作り方や味わいなど)ワインとの組み合わせのポイント(タイプ・シチュエーション)とちぎのチーズ生産者を交えて、チーズ作りのこだわりや目標について、栃木県の酪農の現状などを踏まえながら、とちぎのワイン説明(歴史や味わいなど)とちぎのチーズとワインとのマリアージュ(相性)について今後の那須地域のチーズ生産の取り組みについて</p>					<p>参加者数:45人</p> <p>全く知らなかった・名前は聞いたことがあるが食べたことがないなど参加者はとちぎのチーズ初体験の人が多かったが、研修が進むごとにとちぎのチーズについての理解が深まった。また研修を開催することによって、参加者からの口コミやマスコミ掲載等によるアピールでとちぎのチーズが広まった。結果、参加者がとちぎのチーズファンとなりブランド化による地域活性化へつながっている。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
25	一般社団法人 栃木県古民家再生協会	栃木県那須塩原市	矢野 恒	株式会社 まちコン 代表取締役	まちづくり市民講座 栃木県をみんなで考えよう!	平成25年9月7日	
	講演内容				研修成果		
<p>第一部では株式会社まちコンの矢野恒氏による「今までの街づくりとこれからのまちづくり」というテーマでお話しいただきました。行政主体の街づくりから市民が創り上げるまちづくりという大切さ、自分たちが動かなければ何も変わらないことに気付かされました。</p> <p>第二部ではワークショップを開催しました。アイスブレイクで同じチーム内の方たちとのコミュニケーションを図った後、栃木県の自慢したいところや良いところ、悪いところ、こうしたいところを各チームで話し合い、チーム代表者による発表を行いました。</p>					<p>参加者数:23名</p> <p>地域づくりやまちづくりというイベントを開催するのは初の試みでしたが、参加いただいた皆様により「よかったです」という言葉を頂きました。今回開催して強く思ったことは、「誰かに頼らず、自分たちで変えなくてはならない」ということです。まちづくり市民講座を開催したことにより、地域づくりに対する危機感だけではなく、意識の向上にもつながりました。</p> <p>今回は「考える」ということでしたが、考えるだけでは何も変わりません。今回考えて話し合った結果を次につなげられるよう、今以上に活動に励みます。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
26	しもつけ地域活性化委員会	栃木県下野市	①野尻 博 ②佐々木 雄介	①南作芸人磨心事務所代表 ②南作芸人磨心事務所	夢、元気、笑顔が未来を創る	平成25年8月24日	
	講演内容				研修成果		
<p>地域を元気にするために、何が必要か、これまでに野尻氏が手掛けてきた全国の町おこしの事例について話を伺いました。</p> <p>しもつけ地域活性化の中でどのようなことができるのかということで次のようなお話を聞きました。</p> <p>①かんびょうという地域の特産品を利用して町おこしをするべきである。</p> <p>②かんびょうを東京などの大都市でPR活動を行い、たくさんの人に知ってもらうべきである。</p> <p>③その逆として、県外の人々にかんびょうとは、どのようなところで生産されているのかとか、どのような過程を経てかんびょうになるのかを知ってもらうべきである。</p> <p>④かんびょうを使って付加価値のあるものを創るべきである。</p>					<p>参加者数:73人</p> <p>かんびょうのことについて、考え方を変えれば、意外と有効な利用法があることを感じました。</p> <p>かんびょうを、ただの、お寿司の具材だけではなく、これからは、かんびょうにまつわるいろいろなものへ利用をして、ブランド化を図ることが大切だと思いました。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
27	2015年の公共交通をつくる会	群馬県桐生市	山内 繁	特定非営利活動法人 自治体学会創造コンソーシアム	支えあう心 2011.3.11 その時 それから	平成25年12月15日	
	講演内容				研修成果		
<p>震災直後ライフラインが断たれたことで被災地の者ほど被災状況が分からなかった。気仙沼市が燃えているというニュースは停電が復旧するまで市民は知らなかった。気仙沼は津波で流された海側と、被害のなかった内陸側に分かれたが、余裕のある店や会社は内陸側に移り、街の姿が変わりつつある。海側の土盛りが始まったが、街が元に戻るかはわからない。と復旧が遅れている現状を語った。また、人件費の高騰で被災地の復旧工事が進まない現状も説明「東京五輪決定も素直に喜べなかった。ただでさえ工事が遅れているのに被災地が見捨てられるのでは」との懸念を口にした。</p> <p>さらに「地域産業の衰退や人口減少、過疎化や高齢化。これら復興の課題は被災地に限らない。自分たちの街をどうするか。震災復興への取り組みは、みなさんの地域の未来にもつながっていると訴え、「いま何が必要なのか情報交換しながら被災地を忘れないで欲しい」と訴えた。</p>					<p>参加者数:138名</p> <p>参加者は、テレビや新聞等での情報収集である程度の状況は把握していたが、実際に被害にあわれた地域の方から生々しい現状を聞いて驚いた。多くの参加者は義捐金や必要な物資を協力して送り、買い物ツアーも実施してきたが、3年近くが経過し情報も少なく、ともすれば忘れがちな日々を過ごしていた。</p> <p>今後はお互いに情報を交換しながら新たな支援をする必要性を感じた。研修会後の反省会では、中々進まない復旧・復興に必要なのはお金もあるが、「東北を忘れないで」と言われるように、改めて心の支援をしていこうと誓い合った。</p> <p>来年には、再度、買援隊を組織して東北への買い物ツアーを計画し、気仙沼で現在も活躍しているNPO法人ころの応援団との交流も深めて「東北を忘れないで」を合言葉に応援したい。</p> <p>また、今回の講演会を通じて多くの地元参加者との共通の意識が芽生え、地域活性化の一助となったと確信した。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	殖蓮地区自然環境を守る会	群馬県伊勢崎市	石川 真一	群馬大学教授 理学博士	男井戸川遊水池の保護育成管理	平成25年8月25日
	講演内容				研修成果	

平成25年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

28	<p>・県が休耕田の買い上げを行い、住民委員会での利用計画を検討した結果、利活用ゾーンの3分割案が決まり、そのうちの1か所について、自然と触れ合える公園、水生ピオトープを併設することが決定し、男井戸川遊水池が誕生した。</p> <p>・2008年の調査により、絶滅危惧種であるアサザ、コギシギシ、ミゾコウジュの3種の生育が確認された。</p> <p>・現地の土壌を保存し、造成後に保存しておいた土壌を蒔いたことにより、かつての在来種植物群が迅速に再生している。2010年の調査では、在来種13種、外来種6種の計19種であったものが、2012年には在来種37種、外来種27種の計64種が確認されている。</p> <p>・現在県内にピオトープと呼ばれているものは、アドバンテストピオトープ(明和町)とチノーピオトープ(藤岡市)の2か所あり、男井戸川のアサザは、10年後には消滅の恐れがある貴重な植物なので、群馬大学、アドバンテスト、チノーピオトープに避難してある。</p> <p>・男井戸川遊水池が過去に失われた自然を取り戻し、地域の生態系を再生するまでに今後10年の自然再生事業が必要になる。地味な活動だが外来種の駆除を地域住民、市民、県民で行っていただくことが大切である。植物の名前を覚えると活動が楽しくなるので、皆さんで参加してもらいたい。</p>	<p>参加者数:55名</p> <p>地域住民、市民のみでなく、前橋市や高崎市、藤岡市や桐生市など市外からの参加者も多く、埼玉県の本本市からの参加もみられた。各地で地域づくりやボランティアをしている方、専門家からの質問も多く、初めての参加者も石川先生の回答に聞き入っており、各々の知識を向上させることができた。</p> <p>現地見学会でも多くの参加者から質問があり、地域の自然への興味を高めることができたため、各地域でより一層活動が活発になると考えられる。</p> <p>また資料とともに配布したチラシにより、新たに4名のボランティア会員が加わることになり、今後の活動の励みになった。</p>
----	---	--

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
29	<p>市民目線で行政評価方法を習得し、行政が行う行政評価(内部評価)ではなく、市民が行う行政評価(外部評価)を実践し行政経営の診断をする。</p> <p>1日目 自治体の行政評価 2日目 行政評価における市民参加 3日目 市民と行政の協働による地域マネジメント</p>	群馬県渋川市	佐藤 徹	高崎経済大学 地域政策学部 教授	市民ができる政策評価	平成25年6月13日 平成25年6月20日 平成25年7月11日
講演内容					研修成果	
					<p>参加者数:47名</p> <p>市民が自分の暮らす市の行政評価を行うことにより何の事業が必要で何の事業が必要でないか事業の診断をすることで、市民自身がむだをしない意識をもつことができる。役所任せにはしないことができる。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
30	<p>特定非営利活動法人 国際教育推進プロジェクト BeCOM</p>	千葉県銚子市	花房 孟胤	Manavee代表・開発者	自分と地域のミライと向き合う「Meet ミライ2013」	平成25年8月22日 平成25年8月23日
講演内容					研修成果	
<p>全寮制の抑圧的な環境下で、自ら学ぶことの意義を探り、自分にとって大切であり、誰かに必要と思えることを繰り返し試行する中から生まれたmanavee.com。講師自らの生い立ちや受けてきた教育環境、さらに想いを実現してきた様々な体験を紹介しながら、現在のプロジェクトで本質的に目指している「新しい価値」の創造に向けた挑戦のストーリーを紹介していただきました。</p> <p>また高校生自らが能動的に学ぶためには、自分の思いに気付くことが大切であることを伝えたくて、今回は「気にくわない」をテーマに、自分の思いに気付き、その解決方法を仲間と探る作業をしました。</p>					<p>参加者数:50名</p> <p>パワーポイントを有効に活用しながら、基本は引き込まれる話術で参加学生もサポートスタッフも声をあげて笑いながら、共に考えることができる時間となりました。自ら考え、言葉におこし、それを人と交し合いながら、さらに自分の意見を整えていく作業を、リラックスした状態で行えたことが、そのあとの地域ミライ討論会での活発な討議につながったと言えます。</p> <p>また、高校生の方からの積極的な質問も想像以上に数多く上がり、参加者にとって身近な世代である講師の話がしっかりと伝わったことが感じられる結果となりました。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
31	<p>まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎</p>	神奈川県茅ヶ崎市	卯月 盛夫	早稲田大学社会科学総合学院 教授	勉強会「河童徳利ひろばで何ができるのか?」 ー地域における人と人とのつながりのデザインー	平成25年9月7日
講演内容					研修成果	
<p>都市でも農村でも「コミュニティ」が崩壊している社会状況があるなか、これからのまちづくりは公園整備等のまちづくりの計画策定を通じて人と人とのつながり「ソーシャル・キャピタル」を生み出す工夫が必要である。「河童徳利ひろば」をきっかけにしたまちづくりは、多世代、多様な興味と関心を持つ市民の参画により時間をかけた協議が必要。地域の誇りを子どもたちに伝える市民事業を実践できる組織を立ち上げるべきである。(全国各地の参考事例を紹介)</p>					<p>参加者数:72名</p> <p>勉強会で学んだことを踏まえ、「まちづくり調査・関係各課と関係市民団体による検討会議の開催」などを記した要望書を地元西久保と連名で提出。また、勉強会で応援メッセージを発表した河童徳利に関わる活動を展開中の8団体などとイベントを開催する予定。</p> <p>住民を中心に72名に上った勉強会参加者が、今後、「河童徳利ひろば」をきっかけにしたまちづくりの中心となることが期待される。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	NPO法人GPネットワーク	富山県富山市	<p>①北村 森 ②山出 淳也 ③太田 浩史 ④中田 宏 ⑤アサダ ワタル ⑥迫 一成</p>	<p>①商品ジャーナリスト ②NPO法人BEPPU PROJECT 代表理事 ③東京大学生産技術研究所 講師 ④衆議院議員 ⑤日常編集家・日常再編集 ⑥hickory03travelers 代表</p>	まちづくりセミナー2013	平成25年12月7日 平成25年12月14日 平成25年12月21日 平成26年1月18日 平成26年1月25日 平成26年2月1日
講演内容					研修成果	

32	北村氏 足もとの宝物を改めて見極めて何が重要か、また自分たちにとって何がアピールできるものかを見定めて、それを磨く作業、そして人を知ってもらう作業をしなければならぬ。そして全国におけるまちの魅力を磨き上げる事例、富山における足もとの宝を磨き上げる事例を紹介された。終盤には商品ジャーナリストとしての経験に基づき大切にしている考えを語られた。	参加者数:100名 日本の取り組みだけでなく、ヨーロッパの事例も知ることができ、幅広い分野の知識が身に付いた。そして、2015年の春に北陸新幹線が開通する富山にとって大切なことは、「足もとの宝物を発掘すべき」ということも教えてもらった。 参加者からは、共感できる部分が多い、あつという間の120分だった、話の内容や話し方なども興味深かった、セミナーで得た知識を活用していきたいなど、嬉しい意見が多く寄せられた。 今後は、本セミナーで得た知識を実践していく市民が増えていくと考えられる。
	山出氏 アートは自由なものの考え方・見方を促し、気づきを与えてくれるものであるということを語られた。そしてそのアートの視点から街を考えていくことについて触れられた。また、大分県別府でのアートプロジェクト、大分県北部国東半島のアートプロジェクト等について、具体的な事例を取り上げた。例として別府で街とアートをつなげる仕組みづくり、「platform04」について紹介いただいた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
33	リラクオーレ「あしたへ続く、心豊かな暮らし方」を信州から。	長野県上田市	佐藤 初女	福祉活動家・教育者	「食はいのち」心豊かな暮らし方について	平成25年12月14日
	講演内容			研修成果		
講演会が開催されるまでに、いろいろな人のつながりや協力があって今日の日を迎えることができたと思うので、そのつながりを大事にして、展開していきましょ。食の大切さを考える事はいのちの大切さを考えること。多様なものが多様なまま生きる(生物多様性の)一番身近な例としてぬか漬がある。いろいろな野菜を一つのぬか床に入れ、おたがい引き立てあって美味しい味を出している。大きなことを成し遂げなくても良いし、遠くで自分と関係ない出来事などは無く、身近なところに真理や大事なことはあり、それに気づけるような心を持つことが大事。そして気づいたら実践をしていく。そうすれば社会の役に立っていく。長く生きてくると、人に起こったことは自分にも起こる事、というのが実感としてある。(また震災後らしい話としては、)ボランティアとは見返りを考えずに取り組むことである。(道端にそっとおいてくれるようなもので、振り向きもせず、と付け加えたい、とのこと。)佐藤さんが主宰している「森のイスキア」を訪れる方々の例では、悩んだり、苦しい人は食べる心がおぼろげになっている。一緒に食卓を囲み、少しでも食べられるようになってくると、心も溶けて生きるエネルギーが湧いてくる。食べることは、いのちのちのかかわりを味わうことでもある。(佐藤初女さんといえばトレードマークの)おむすびを作るときは、おいしくなれど余計なことを考えず、無我の境地でむすんでいる。そうやって一瞬一瞬を真剣に生きることが大事。					参加者数:312名 90歳を超える佐藤初女さんが今熱中しているもの、ぬか床。そこに生物多様性を見ているというお話に、日常の中に気が付くべき多くのことがあると気が付かされました。聴講者の多くは女性で母という方が多く、佐藤さんの具体的なお話がすっと胸に落ちたようでした。また佐藤さんから「講演会を開催する」ということで人と人とのつながりができる。そのつながりを大事に、次に展開していくというお話がありました。まさにこの地域での食や生き方を通してつながり作りのきっかけになる講演会でした。実際的にはNPO法人食と農のまちづくりネットワーク、上田生と死を考える会、長野大学、上田婦人友の会、カフェオーナーの方々などと、この講演会をきっかけにつなげることができました。このつながりを今後展開させ、多様性を認め合う持続可能な地域づくりに活かしていきたいと思ひます。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
34	NPO法人 P-Kパラダイス	長野県須坂市	吉田 新一	立教大学名誉教授 英米児童文学研究者 軽井沢絵本の森美術館名誉顧問	「絵本のおくりもの」	平成25年12月15日
	講演内容			研修成果		
吉田新一氏は、永らく絵本学会会長を務め、日本におけるピタリクス・ボター(「ピーターラビット」の作者)研究の第一人者。第1部は、ボターを知り尽くした吉田氏が、同シリーズの中から5冊を取りあげ、絵本の「絵」を読む愉しみを語った。パワーポイントを使用して、さし絵を細部まで解説。「絵本の森の魔法使い」のすどろい観察眼で読み取った、絵に託されたメッセージが語られると、おなじみの「ピーターラビット」が新しい物語のように動きだし、会場から感嘆の声があがった。 第2部では、あまたあるクリスマス絵本の中から吉田氏が厳選した作品を、丁寧に解説し、クリスマスに親子で楽しんでほしい名作を、つぎつぎで紹介した。					参加者数:38名 本講演は、「ピーターラビット」をはじめ、英米児童文学の金字塔と呼ぶにふさわしい名作から、クリスマスの絵本までを網羅する、須高地域でははじめての内容となった。会場には絵本が好きな方ももちろん、読み聞かせなどで日ごろから絵本をツールに活動している方々も多く見られ、絵本初心者には入門編として、経験者や図書館員にはブラッシュアップにふさわしい内容だったとの声があがった。 最後に、市立須坂図書館の取り組みについて司書から案内があり、講演後には吉田氏を囲んで、地域で読み聞かせ活動をしている方々との意見交換も行われるなど、「絵本」をキーワードにした地域づくりに貢献できた。また、同会場で開催しているイルミネーションでは参加した展示で優秀賞をいただき、会場を大いに盛り上げた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
35	持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪	長野県塩尻市	①畠中 洋行 ②畠中 智子	①プロセデザイナー(地域育て・まち育て・コミュニティ育て) ②株式会社わおん代表取締役	企業とNPOが協働すれば、もっと簡単に地域課題が解決できる!	平成25年12月6日
	講演内容			研修成果		
企業よし、NPOよし、世間よしの地域づくりを行うキーワードは、「コドモノチカラ」である。次世代を担う子供達のチカラを伸ばす機会の実例として、とさつタウンについて紹介していただく。(http://tosacco-town.com/)とさつタウンを開催するにあたり、NPO関係者がサポートしながら大学生が中心となり企画する。そして、子供達に本物の体験をしてもらうために、様々な業界のプロに協力を依頼。また、開催費用を補うために寄付つき商品や飲食メニューの開発なども行っているとのこと。 子供達のチカラを伸ばすために必要なことは、「待つ姿勢」と「場を提供」すること。あとはコドモノチカラを信じるのが重要だと学んだ。					参加者数:23名 当地域ではあまり事例のない、企業とNPOの協働の事例をきくことができたことも、とさつタウンという子供がイキイキと成長するとともに素晴らしい活動を詳しく知ることができた。 企業とNPOとが協働するきっかけとして、子供に関わる活動から始めることで、お互いの想いにつながりやすいことを学ぶことができた。また、アンケート結果より、当地域においてもとさつタウンのような活動をしていきたいという声は何件もあり、あたらしい動きに発展していけると期待できる。 参加人数は想定より少なかったが、アンケート結果では参加していた方には大変好評だった。セミナーの進め方にも関心が集まり、お二人が話をしながら、板書をしていく手法についても学びたいという声は何件もあった。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
36	公益財団法人 妻籠を愛する会	長野県木曾郡 南木曾町	①池田 宗兵衛 ②浅野 聡	①長野総合研究所理事長 信州芸術文化振興財団理事長 ②三重大学大学院工学研究科 建築学専攻 准教授	第38回妻籠冬期大学講座	平成26年2月1日
	講演内容			研修成果		
<p>①「重要伝統的建造物群妻籠宿」の限らない進展を祈って」をテーマとし、自治省・県職員として妻籠宿保存に携わった当時を振り返りながら、半世紀近く続けてきた地元の苦勞に敬意を表すとともに、世代交代していく中での継続の難しさと期待を示した。</p> <p>②「景観法10年を迎えて―景観行政の成果・課題・展望―」をテーマとし、江戸時代の景観づくりの素晴らしさの説明から始まり、高度成長の中で景観が破壊される中、国交省・農水省・環境省による景観法の制定、景観計画による各地の取組みを紹介しながら今後の展望と課題を分かりやすく説明された。</p>					<p>参加者数:50名</p> <p>①保存開始当初の苦勞を思い返し、地域住民の高齢化、空き家の増加等様々な問題点を改めて見つめ直し古民家に価値を認め保存を認めた行政に感謝し、行政・学者・住民が三位一体となって進めてきた保存の価値を次世代に伝える努力の必要性を痛感し、妻籠宿保存継続の大きな課題を再確認した。</p> <p>②景観法誕生の経緯と各地の取組みを分かりやすく示して頂き、大変参考になった。景観法については制定された時点から妻籠では注目し期待し学習会等行ってきたが、肝心の行政にその気がなく停滞したままになっている。これを機三位一体で進めてきた原点に戻り、制定する目標ができた。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
37	愛荘町愛知川 観光協会	滋賀県愛知郡 愛荘町	早川 鉄兵	フォトグラファー、切り絵作家	まちじゅうでアート”切り絵でまちを飾ろう!!～早川鉄兵トーク&ワークショップ～”	平成26年2月2日
	講演内容			研修成果		
<p>2011年から2年間、滋賀県原市で地域おこし協力隊(みらい・つくり隊)として活動した経験とその後の取り組み、活動の中心となる切り絵との出会いについて講演。映像を交えながら、自身がリーダーとなり企画運営する地域おこしイベントや切り絵を通じたまちづくりの実践について紹介した。住民ひとりひとりが地域の一人として、ともに課題解決の方法を考え、次世代のために行動することの重要性、また、子育て世代に向けて、活動の原点にある切り絵との出会いを例に幼児体験の大切さを語った。ワークショップでは、伊吹山の動物のエピソードを織り込みながら、独創的な切り絵作りを指導した。</p>					<p>参加者数:52名</p> <p>乳幼児のいる家族連れから高齢者まで、住民や在勤在学者、愛荘町に4月から赴任する地域おこし協力隊のメンバーなど幅広い層の参加があり、多様な人が交流できたことが大きな成果だった。地域のすばらしさを伝えたいという思いを原動力に、地域の人の助けを借りながら誠実に地域活動に取り組む早川さんの姿勢から、まちづくりとは特別なものでなく、体験や動機に根ざしたひとりひとりの小さなきっかけから始まることを学んだ。また、ワークショップでは、世代の違う人々が達成感や喜びを共有することができ、周囲の人と協力しあいながら、人や町の魅力を育てていくことの大切さを実感することになった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
38	特定非営利活動法人 ア・ピース・オブ・コスモス	三重県尾鷲市	①福元 純子 ②福島 陽子	①南3Way代表取締役 ②現代美術家	「レジデンスとアルベルゲで伊勢熊野街道の活性化を考える」	平成25年6月10日 平成25年6月11日
	講演内容			研修成果		
<p>①熊野古道は全行程を通して歩ける設備が整っていない。巡礼者が増えることでスペインの廃村が蘇った例があり、県を超えた統一標識などの設置が必要。異なる信仰を結ぶ道は日本独自で世界発信するべき。(別添新聞記事参照)</p> <p>②観光資源と文化イベントを繋げることで大きな効果が期待できる。</p>					<p>参加者数:35名</p> <p>①車の旅行は通過するだけだが、歩く地元にお金が落ちる。単なる旅行者だとゴミを捨てるが、巡礼者という自覚がマナーを守らせる。</p> <p>②熊野古道、世界遺産登録10周年の事業に子供達が熊野古道に置く丸太作りのベンチを芸術家と一緒に創る提案がなされた。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
39	源内峠遺跡復元委員会	滋賀県大津市	広瀬 和雄	総合研究大学院大学文化科学研究科 日本歴史研究専攻教授併任	古代産業の発祥地で地域づくり!	平成26年2月15日
	講演内容			研修成果		
<p>「史跡を活かしたまちづくり」をテーマに歴史が息づく快適環境づくりに史跡公園をどう活かすか? 課題は何か? 各地の事例を参考に現状の良い点、悪い点を参加者に解り易く解説されました。遺跡の発掘調査もピークを過ぎ近年では調査終了後、遺跡の多くは破壊し価値の高いものは史跡に指定し永久保存。今後は報道機関への宣伝やキャッチフレーズ、ストーリー性をもたせ専門家や民間ボランティアと連携を図り面白さ感動を与える努力をする。</p>					<p>参加者数:130名</p> <p>前日の降雪、当日の雨と足元の悪い中、多数の参加を得て開催されました。広瀬先生の貴重な講演で我々、参加者も地元の大切な遺跡を再認識し、次世代に繋ぐべく指針を頂きました。パネルディスカッションでは各団体共、特長があり世界遺産を目指して活動、我々と同じく地域に製鉄遺跡をもつ社長や工場の主宰者さんの鉄に対する熱い思い、活動内容に感嘆し大変参考になりました。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
40	一般社団法人 コナン市民共同 発電所プロジェクト	滋賀県湖南市	①今若 伸男 ②諸富 徹	①湖東興産株式会社代表取締役 ②京都大学大学院経済学研究科教授	(市民連続講座) 自然エネルギーは地域のもの ～スマートコミュニティの実現をめざして～	平成26年2月14日 平成26年2月20日
	講演内容			研修成果		
<p>(第1回) 今若社長からは自社における太陽光発電事業に関する実績を中心に、地方自治体や地域と連携した太陽光発電のプロジェクトづくりのポイントやその実績に関して、詳細なお話しを頂いた。参加者は具体的な事例を交えたお話しを聞き、湖南市および地域でのまちづくり活動への波及・展開方法について考えを深めることができた。</p> <p>(第2回) 諸富先生からは、欧米のエネルギー・経済に関するマクロ的なデータ紹介やスマートコミュニティの概念・意義をご紹介いただいた。また、ご自身が関わられている長野県飯田市における地域ぐるみのスマートコミュニティの取り組みについて、具体的な内容を含めて解説いただいた。湖南市および周辺地域における取り組みの一つの切り口として、スマートコミュニティの可能性を様々な視点から考えることができた。</p>					<p>参加者数:50名</p> <p>第1回の今若社長の講演からは、地域・まちづくり活動を推進するための一つの事業として、地域における再生可能エネルギー事業が可能となっているという情報が共有された。様々な活動領域で活動される参加者にとって、安定的な経済基盤を築くと同時に、地域内の経済循環の促進につながる再生可能エネルギー事業の具体的な実施プロセス、方法を学ぶことで、継続的なまちづくり活動につながることを期待される。</p> <p>第2回の諸富先生の講演からは、世界的な視点からスマートコミュニティの全体像を学ぶことができ、さらに日本における具体的なプロジェクトとして飯田市の事例を共有することによって、市民共同発電所等の取り組みを進めている湖南市や滋賀県内等への波及効果が生まれるものと考えられる。地域の様々な活動をつなぎあわせたスマートコミュニティの取り組みは、多様なまちづくりの主体が連携する機会として有効であると思われる。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	京田辺市観光 ボランティア協会	京都府京田辺市	中江 好喜	京都産業大学日本文化研究所 所長特別客員研究員	第1回目「日本庭園の歴史と見方」、第2回目「仏像の見方」	平成25年9月14日 平成25年10月19日
	講演内容			研修成果		

平成25年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

41	「日本庭園の歴史と見方」:別添「庭園鑑賞の基礎知識」を基に、日本庭園の移り変わり、日本庭園の美の見方について基本的な講義があり、最後に「庭園の登竜門」の話で締めくくった。 「仏像のみかた」:別添「十三仏から入る仏像の見方と特徴」を基に仏像の誕生、仏像の特徴等の説明があり。約2時間の講義時間で総てが講義内容が終了せず、明王、天部は次回の機会にするようになった。最後に受講者の理解度や受講希望を知るため、アンケートを実施した。	参加者数:第1回目66名、第2回目59名 第1回目の受講者はガイドを含め66名、第2回目は59名と関心の深さに驚いた。受講者の年齢構成は30代~80代と幅広く、勉強意欲を感じた。講義の内容については「良かった、非常に良かった」との回答が大部分を占め、十分に理解していただいたようで好評であった。 今後、受講者の希望される講義内容と、我々ガイドメンバーの研修をどのように融合するか検討し、市民参画型の勉強会を持続していきたい。
----	---	--

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	高安ルーツの能実行委員会	大阪府八尾市	①西野 春雄 ②今泉 隆裕 ③橋場 夕佳 ④高安 勝久師	①法政大学名誉教授 ②桐蔭横浜大学准教授 ③京都造形芸術大学非常勤講師 ④能楽高安流ワキカ14世宗家	八尾・高安と能楽の関わりを探る講座	平成25年10月19日
42			講演内容		研修成果	
			<p>○講演 「現代に蘇る古典 ～復曲能をめぐって～」 ・主に復曲能について解説するとともに、演出の重要点などに言及。 ・河内ゆかりの番外曲「守屋」・「雪見」等を紹介。 ・復曲能が鑑賞できる機会の希少さを説明。</p> <p>○講演 「梅枝と摂州合邦社をめぐって」 ・河内高安の郷土にまつわる摂州合邦社をテーマに、能楽の演目に関わる事柄を詳しく講じた。 ○パネルディスカッション「高安能の今後の展望」 ・「高安」復曲能に向けて、専門家・郷土史研究者が具体的な実現可能性のある意見交換をし、参加者へ復曲能の魅力を紹介すると共に、高安能に関する活動の継続について更なるアプローチを促した。</p>		<p>参加者数:166名 当日は、予想を超える参加者数で、大変な盛況ぶりとなった。講演では、復曲能の魅力と共に、鑑賞できる機会の希少さが説明され、参加者の興味を惹いていた。 パネルディスカッションでは、学者それぞれの目線から、復曲能「高安」上演実現に向けての具体的なポイントまでもが発表された。 参加者からも、今後の活動の動向に注目していきたいとする声があり、本講座の来年の開催が決定した。 地域に大切にされる文化としてこの活動を継続、保存する…いわゆる「地域密着型」の活動を目指すにあたり、非常に有意義な機会となった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	特定非営利活動法人 電子自治体アドバイザークラブ(e-AAC)	奈良県奈良市	①村田 武一郎 ②玉木 剛 ③大槻 卓也 ④小西 貴雄 ⑤永富 聡 ⑥大森 淳平 ⑦中村 哲 ⑧上村 幸太郎	①奈良県立大学 地域創造学部 教授 ②富士通株式会社 スマートシティ推進本部 マネージャー ③大和ハウス工業 本社技術本部 グループ長 ④シャープ ソリューション事業推進本部 統括 ⑤浜銀総合研究所 ⑥奈良県立大学 兼任講師 ⑦大塚ガス リビング事業部 リビング開発部 推進チーム ⑧NTT西日本 法人営業本部 部長	「スマートコミュニティと安心・安全、快適なスマートハウス」セミナー	平成25年7月13日 平成25年7月20日 平成25年7月27日
43			講演内容		研修成果	
			<p>少子高齢化社会、東北大震災を契機に街全体の電力の有効利用や再生可能エネルギーの活用、都市の交通システムや住民のライフスタイル変革など、複合的に組み合わせた社会システムはどうあるべきか、また防災や減災、省エネな低炭素社会の実現はどうしたらいいか、新しい家づくり、地域づくりや街づくりは、これからの観点でスマートコミュニティ・スマートハウスが大変注目されている。一方ICTの利活用は従来の合理化や省力化ばかりでなくあらゆる産業で幅広く活用され、まさにスマート、賢く使う事によりビジネスを活性化したり、新サービスがどんどん提供されてきている。かかる背景を踏まえ、9名の講師がそれぞれの分野で最新動向や課題、実例を踏まえた解説をする。</p>		<p>参加者数:計102名 スマートコミュニティやスマートハウスなどを理解し、今後の防災・減災に役立ちかつ省エネなまちづくり、地球にやさしい低炭素社会や新しい地域づくりの重要性について学んだ。更に地域でのエネルギーの自立を目指したスマートコミュニティやスマートシティ、地域におけるエネルギー開発への人々の参画の仕組みや実例についても学んだ。また奈良県のエネルギー政策や奈良県における再生可能エネルギーの活用可能性について詳しく学んだ。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	社団法人 日本建築家協会近畿支部奈良地域会	奈良県奈良市	①前野 まさる ②好川 忠延	①東京芸術大学名誉教授・近代建築史家 ②建築家・好川忠延建築設計事務所・所長	近代化の心ファーマム	平成25年4月25日
44			講演内容		研修成果	
			<p>講演に先立ち、会場の奈良基督協会教師・司祭の井田氏により、昭和5年に建てられた教会堂の説明と主催者の挨拶があった。フォーラムでは、好川氏より講師の紹介があり、前野氏の講義が始まった。内容は、ヨーロッパに始まった蒸気機関等のエネルギー革命による工業化に起因する近代化が日本に影響をもたらした時代背景、そして日本の近代精神(欧米諸国に追いつき追越え)があったこと。建築界における明治、大正、昭和における近代建築の変遷、東京丸の内の変貌と東京駅の皇居との関係、市民による保存運動とその顛末が語られた。また、物が残る五要素として、芸術性、記念性、希少性、なじみ性、利便性が重要であるとし、保存するための三原則として使えること、清潔さ、価値が見える事があり、この内一つでも欠ければ保存が難しくなり、まちづくりの町並み保存の方法をフローチャートを使って説明された。質疑応答と共にフォーラムが進められ、好川氏により奈良の近代化遺産の説明を事例写真ともに行われた。</p>		<p>参加者数:110名 講義は、日本の近代化について歴史背景と共に近代建築の変遷をわかりやすく語られ、概要を把握することができた。前川国男の丸の内マンハッタン計画のように、昔から開発と保存の議論と、東京駅が市民運動の盛り上がりにより保存されたことや、皇居との関係、政治や文化との関連性など重要であることが理解できた。物が残る五要素や保存の三原則は、端的に整理された内容を語られ、主観だけでなく良いものを保存する術と基本的な考え方を教えられた。実際にまちづくりの中で地域資源や市民が相乗関係し、活動するための方法論として示された「町造りチャート」は、土地と人々との営みを図式化し、奈良でも実践できる明快な筋道を提示いただいた。今回のフォーラムは、近代化の心の糸口として、次世代に受け継ぐべき心とメッセージが随所に織り込まれたフォーラムになったと考える。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	岡山建築設計クラブ	岡山県岡山市	石上 純也	建築家、東北大学大学院非常勤講師、石上純也建築設計事務所代表	「周辺の魅力を活かした、地域の文化と観光の核になりうる施設」の提案	平成25年11月9日
45			講演内容		研修成果	
			<p>石上純也氏の設計した建物および現在進行中のプロジェクトをプロジェクトで、映像を流して説明。2009年に日本建築学会賞を受賞した「神奈川工科大学KAIT工房」(ガラスのBOXの内部に鉄骨の細い鉄管が不規則に並ぶ)、「モスクワ科学技術博物館 改修工事」(周辺の建物も含めて地面を掘り、地下からアプローチできる事が特徴で、地上から地下へランドスケープが繋がっていく)、「オランダの公園のビジターセンター等複合施設」(建物の中を散歩する)、「大学のカフェテリア」(110m×70mの無柱空間を実現)等。 自然環境を、建築からかけ離れた遠いものとしてとらえるのではなく、それらを建築と近いものとして、同時にデザインしたい。その境界をぼかすことで、新しい都市の概念が生まれてくる。</p>		<p>参加者数:159名 新進気鋭の若き建築家石上純也氏の設計に取り込む思想や手法の一端を知ることが出来、建築系学生にとっても、また一般の人々にも有意義な企画になりました。学生たちが共同作業で製作した作品は、「まちづくりフォーラム2013」のイベント会場である、岡山ルネッサンスホールにも展示され、多くの人々に見ていただくことで、まちづくり、地域づくりに貢献できたものと確信しています。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	くらしきパートナーシップ推進ひろば	岡山県倉敷市	福井 正樹	NPO法人 KIRALi代表理事	本気ではじめる協働事業づくり ニーズ・事業・予算・雇用・体制	平成25年9月14日
			講演内容		研修成果	

46	①何故、雇用を生む協働事業づくりが必要か NPOのミッションを成し遂げるために、行政などとのスクラムにより、安定した雇用を生み、プロとしての仕事をしていく。 ②持続可能な組織づくり ビジネスモデルを描き、マルチステークホルダーを構築する。 ③財源確保—行政連携と企業連携 単年度の補助金・助成金から、人件費が確保できる委託事業の受託を、企業や市民からの寄付と、お金ではない援助を得よう。 ④ソーシャルビジネスとしての協働事業づくり 社会問題を解決するための活動をより効果的、持続可能な形で行うにはビジネスモデルを導入するのがよい。 ⑤企画提案書の書き方 ⑥協働を生むための準備的活動の大切さ—ロビイングと政策提言 情報収集→政策提言(スキーム+予算書) ⑦スキームづくり・予算書作成 ⑧プレゼンのコツ ⑨それぞれのスキームの分析、講評	参加者数:22名 ①「雇用を生む協働事業づくり」というテーマが重要な課題となっている団体の代表、理事、事務局というメンバーが集まり、一歩踏み込んだ内容で実践的なものになった。また、団体同士のネットワークも深まった。 ②各団体ごとに企画提案書をつくりプレゼンし、講師からのアドバイスをいただいたことで、各団体関係者が団体にとって必要な視点、今後に活かせるポイントをつかめることができた。 ③講師からご自身の団体の実践例を、書式も含めて提供していただき、研修後のフォローについてもメール対応していただけるという提案があったことにより、団体の現場にすぐに活かせる研修となった。
----	--	--

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
47	図書館と友だちの会・秋穂	山口県山口市	玄田 有史	東京大学社会科学研究所教授	希望のチカラ～図書館はワンダーランドだ！～	平成25年11月30日
	講演内容			研修成果		
「希望とは何か」、「どうすれば希望を持てるか」についてわかりやすく紹介。講師の学生時代の図書館体験から、図書館は予期しない世界に出会うことができる場であり、希望を持つキッカケにもなる、いわば宝の宝庫である。希望を持つ人は決して順調にきた人でなく、様々な試練を超えてきた人であることが多い。「勉強は何故するのか」という中学生の問いには「わからないことだらけの人生を何とかして超えていく練習をしている」と答えた。子供の成長に伴って「三つのカン」、すなわち、「感(動する心)」、「勘(所)」、「観(ビジョン)」を育てたい。希望の4つの要素を「Hope is a Wish for Something to Come true by Action.」とまとめられた。			参加者数:36名 参加者数が定員割れをしたのは残念だった。理由として当日隣接市で西日本図書館学会が開催され、関心を寄せられていた図書館関係者の参加が少なかったほか、市内で、講演会の開催が重複していた。しかし、参加者のアンケート結果(別紙)から見れば、「楽しくわかりやすかった」、「三つのカン」や「緩やかな絆づくり」、「図書館は生きるための土台づくり」、「満更でもないと思えることの大切さ」、「わからないことから逃げ出さない練習のために勉強する」など講演のキーワードをしっかり受け止める感想が多く見られ、また秋徳図書館を利用したことのない人の参加もあったことで、今後関心を待つ層が増すことが期待される。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
48	認定NPO法人こどもステーション山口	山口県山口市	小林 陽一	演奏家(ジャズドラム)	初めてのジャズ体験＝小林陽一のジャズワークショップ ～ジャズで交流、文化のかおるまち～	平成26年2月21日
	講演内容			研修成果		
前半では、講師自身のジャズとの出会いに始まり、約100年前にアメリカの小さな町で生まれたジャズが様々な変化・発展して地域に根ざってきたこと、どのような経緯で日本に入ってきて受け入れられ現在に至っているかなど、ジャズの歴史と変遷についての講演があった。話を聞くだけでなく、ロック・サンバ・ボサノバなどの曲に合わせて講師がドラムをたたき、参加者も手拍子で様々なリズムをたたくことにより、楽しみながらリズムの違いを学ぶことができる内容だった。(1時間) 後半では、サンバのステップを踏んでリズムを体験した後、希望した子ども全員(32人)が、一人ずつ実際にドラムをたたき体験レクチャーを受けた。その後、講師による演奏があり、最後に質疑応答をして終了した。(1時間)			参加者数:84名 著名な演奏家によるワークショップということで注目度が高く、小学生から高齢者までの幅広い年齢層の多くの参加者を得た。 講師による分かりやすい講演とレクチャーによって、地域に根ざしたジャズの歴史と変遷を理解することができ、実際に様々なリズムを体験することによって、ジャズは難しいという先入観を払拭することができた。また、ジャズとの対比によって日本の音楽の良さも知ることができ、国や年齢を超えた音楽という文化の奥深さを実感することができた。 子どもとおとなが時間と空間を共有してジャズという文化に触れ、楽しみながら交流することができた。また世界で活躍する演奏家との出会いは、参加者に夢を与え、世界を身近に感じる貴重な機会だった。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
49	女性がん患者会「あいの会」	山口県長門市	園田 マイコ	(株)オスカープロモーションモデル	がんで死なない為の検診啓発(ピンクリボンイベント)	平成25年9月28日
	講演内容			研修成果		
園田マイコさんの乳がんの告知・手術・抗がん剤治療・病気とモデルの仕事・家族の反応・新たな出会い等などについて詳細に話して頂きました。 その中で、自分を支えてくれる家族や友人がいること、信頼できるお医者さんと出会えたことなど、すべてかけがえのない人たちのお陰だということが分かってくるに従って、乳がんと真正面から向き合おうと考えるようになられ、前向きに治療に取り組む事を決められたことを強調されました。			参加者数:170名 参加された皆さんが、今は健康であっても、がんの家系でなくても、多くの女性にとって、乳がんは決して他人事でないことを知り、自分の体の事を見つめ直すきっかけになった事だと思います。その一つの方法として、乳がんの自己検診法を学んでお帰りになりました。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
50	ふれ愛の町ひろしまをつくる会	香川県丸亀市	小松 由佳	写真家	島の環境の良さを発信するために	平成25年12月10日
	講演内容			研修成果		
講師は今までにアジアの草原や砂漠を訪れて、自然と共に生きる人々の生活する姿を見てきた。そして、丸亀市の離島の手島に縁あって、訪れた時に環境は異なっても、自然の中で生き抜くための知恵を身につけ、そこで生活する人たちは豊かさを持っていることに感銘を受けた。それぞれの人自身は、当たり前前のような生活様式を守っているが、そこに美しさが現れていることを是非見つけ出してほしい。過疎で高齢化の中で、伝統を守り抜いてきていることがかけがいのないことであることを映像を通して話をしました。			参加者数:32名 参加者のほとんどが昔から島に住んで、当然のように伝統を守りながら生活している人達である。島外の人が見て、素晴らしい景観についても、当たり前前であったし、その歴史についても、今まで経験してきたことという認識であった。しかし、講師の講演や撮影した写真を見ると、綺麗に見え、この島の良さを改めて、考えることができたという感想があった。自分たちが美しい島で生活していることと先人が守ってきた伝統に感謝して、もっと自分たちの環境や生活を大切にしていこうという意見があった。この講演で住んでいる人たちが島の良さが再認識でき、そのことで今後の島の活性化の出発点が確認できたと考えられる。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	楽友協会えひめ	愛媛県松山市	①山崎 睦 ②吉岡 克典 ③林 澄子	①音楽評論家・ジャーナリスト ②音楽家・ヴァイオリニスト ③音楽家・ピアニスト	講演会とシンポジウム『まち』と『音楽』 その歴史的・文化的背景とそこから生み出したもの	平成26年1月13日
	講演内容			研修成果		

平成25年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

51	前半は講演で、講師の由崎陸氏が、『まち』と『音楽』、音楽の都ウィーンと題し、現在自身の生活の場である「ウィーン」という「まち」の歴史的・文化的背景と、いかにして「音楽の都」と呼ばれるようになったか、そして現在のウィーン音楽界の構図と、それが果たしている役割などについて、多角的にお話しいただいた。後半はシンポジウムを開催し、前半でご講演いただいた山崎氏に加え、それぞれに海外に留学・生活経験をお持ちのヴァイオリニスト、吉岡克典氏と、ピアニスト、林澄子氏を加えて、それぞれの体験から、今後の『まち』と『音楽』の関係や、そこから生み出されるものについて意見交換した。	参加者数:100名 愛媛・松山地方は中核都市で、周辺人口を含めれば60万人を優に超える「大都市」でありながら、なかなか音楽文化が根付いていない。基調講演者は40年以上も『音楽の都』ウィーンに在住し、つぶさにその音楽シーンを見届けた経験から、示唆の富んだお話をいただいた。また、シンポジウムの2名のゲストからは、音楽家という立場からもコンサート活動の魅力と今後の期待が述べられ、今後の活動への新たな手がかりが与えられた。
----	---	--

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	NPO松山冒険遊び場	愛媛県松山市	①鈴木 真一 ②鈴木 麗	①震災被災者(精TBK社員) ②鈴木真一の妻	子供達にとっての震災後の福島は・・・ 福島の今を知り、愛媛の防災を考える	平成25年9月22日
52	講演内容			研修成果		
	講演会では鈴木さん夫婦から福島県郡山市の現状について話していただき、パネルディスカッションでは福島県川内村から避難して来られた新妻さんと愛媛の子育て支援に携わる方などからお話を聞くことができました。			参加者数:43名 私たち愛媛に住む者が、被災地の現実を知る機会は本当に少なく、ほとんどの人がテレビの情報のみを鵜呑みにしている現実気付かされた講演会とパネルディスカッションであったと思います。それと同時に、震災の体験を知ること、これからの愛媛の防災を考える上でとても貴重なお話が聞けたことは最高の成果であったと考えています。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	えひめ地域づくり研究会	愛媛県松山市	①村上律子 ②藤目節夫 ③坂本浩 ④岡田文淑	①ゆげ女性塾代表 ②THINK TANK【惣】代表 ③松野町産業振興課課長 ④地域アドバイザー	えひめ地域づくり研究会議年次フォーラム2014	平成26年2月8日
53	講演内容			研修成果		
	雪の為、飛行機が欠航し、基調講演(講師)の大森彌先生が急遽欠席となった為、パネルディスカッションのコメントーターを大森先生の代わりに参加者の中から、内子町地域アドバイザーの「岡田文淑」氏にお願いし、パネルディスカッションの時間を拡大し、参加者からも意見を頂き討議することとした。大森先生のお話を聞けなかったのは残念ではあるが、発表者には、議論が沸騰するようなすばらしい問題提起を頂き、また会場の皆様には討議に積極的に参加していただいた。			参加者数:120名 人口減少時代の中で遂行された市町村合併の影響は、それ以来地域の至る所まで歪みがでているのも事実である。愛媛県(東予・南予・中予)地区のそれぞれの取組のお話を聞かせていただき、合併した理由・意味を再考するとともに、新たな自立と連携、更なるネットワークの構築を行うことが必要だと実感した。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	NPO法人シアターネットワークえひめ	愛媛県松山市	平塚 直隆	劇作家・演出家・俳優	戯曲講座「3日間で戯曲を書く、読む、聞く」	平成25年12月20日 平成25年12月21日 平成25年12月22日
54	講演内容			研修成果		
	①簡単な穴埋め式戯曲を書く「いつ、どこで、誰が、何を、何の目的で、どうする」を念頭に各自簡単な戯曲を書く。 ②作劇法レクチャー 講師の戯曲台本をテキストにしながらか作劇法を説明、上演DVD鑑賞。 ③各自が書いた穴埋め式戯曲を全員に配布、配役して読む、聞く、講評。 ④10分程度の戯曲を各自書く。14本の台本が完成。出席者で配役して読む、聞く、講評。 ⑤14本の作品でリーディング 交流会			参加者数:70名 参加者は、ほとんどの方が戯曲を書いたことがなかったが、この講座によって10分程度の戯曲が14本完成した。完成した戯曲を参加者で配役し、リーディングで発表を行い講師がそれぞれの作品を講評しながら、各自の作品を振り返った。戯曲を振り返る中で、初心者参加者が2月にこの講座から生まれた短編戯曲を上演することやリーディングを初めて体験した方が1月に役者として舞台上立つことが決まった。 交流会では、戯曲を書くことを継続していきたい、地域を題材にした作品を書きたい等の感想が寄せられた。今後は、豊かな地域人づくりのため優れた演劇作品を持続的に生みだしていけるよう、受講者の方々との継続的な関わりを続けることで地域から文化発信力を高めていく。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	年輪塾	愛媛県伊予市	①川澄 哲夫 ②青野 博 ③田中 裕美	①(公財)国際草の根交流センター顧問 ②ジョン万次郎研究家 ③ウェルカム・ジョン万の会代表	「今に活かす! ジョン万スピリッツ」	平成25年11月16日
55	講演内容			研修成果		
	「ジョン万次郎とその時代」と題して、ジョン万次郎研究の第一人者である川澄氏から講話していただいた。ジョン万次郎の帰国は、単なる望郷からではなく、開国を願うアメリカ国民の要望を受けてのものだったことなど、知られざる万次郎像を語られた。鼎談では、ジョン万次郎研究家の青野氏が万次郎の魅力や、ウェルカム・ジョン万の会代表の田中氏が万次郎の精神を子供達や地域に広げることの大切さを語られた。参加者からの発言も多くあり、愛媛で活動する外国語講師からもジョン万次郎の英会話などが紹介された。			参加者数:34名 先人の生き様を学ぶ年輪塾では、宮本常一、二宮尊徳に続き、ジョン万次郎を2年間にかけて追いかけてきた。今回の公開セミナーはその集大成であり、あきらめない気持ちを武器に、不可能を可能にかえる「ジョン万スピリッツ」に視点をおき、学習することができた。ジョン万次郎の精神は、しっかりと地域に根ざして脈々と生き続けており、現在もその評価は高く、アメリカでは児童文学書が新たに発刊されたようだ。貧しい漁家に生まれた宿命を、遭難、漂流、海外生活という偶然を運命として日本と世界との橋渡しに大活躍した万次郎。心に希望の火を掲げながら自分の力で宿命を運命に変える姿は、参加者それぞれの自立・自律に少しでも繋げることができたのではないだろうか。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	えひめ親守詩大会実行委員会	愛媛県東温市	エドワーズ博美	メーランド大学講師・翻訳家	第2回 えひめ親守詩大会における記念講演「見直そう、日本の子育て」	平成26年2月22日
	講演内容			研修成果		

56	<p>最近の日本の現状を見た時、家族の崩壊、子育ての怠慢が目に見える。その状況を打破する方策の一つとして「アメリカ価値研究所」が2003年に発表した調査結果には傾聴するものがある。調査は、「人は生まれもって、繋がりと神仏や先祖と言った精神的な自分を超越した何かとの繋がりが」と言っている。昔の日本の家族に備わっていた、こうした人との繋がりが、先祖に手を合わすといった習慣を通して築かれる精神的な繋がりを今一度取り戻す必要がある。更に、調査も提唱していたように、こうした繋がりの喪失で苦しむ子どもたちを救うために「愛情を一杯注ぐと同時に、子どもに対して厳しく接する」といった権威ある親を取り戻す必要がある。</p>	<p>参加者数:450名 近年の子育てを取り巻く状況は、少子化や核家族化、価値観の多様化、さらに女性の社会進出などに伴い大きく変化している。子どもをめぐる問題が深刻化する一方で家庭の教育力の低下が指摘されている。日本の伝統文化である俳句・短歌に似た形式で親子で作ることで家族の絆を見直そうという試みで詩の募集や鑑賞会・講演・表彰式という構成の大会を行った。詩は第1回を上回る3143人から3712点の作品が寄せられた。会場に展示された詩など多くの人に感動をもって読まれ、また講演では親は子供に与える影響の大きさ、伝統的な親子のありようの大切さを改めて感じていただいた。多くの肯定的なアンケートが寄せられ、第3回の開催を求める声に参加者や会場の行政担当者からも出た。</p>
----	--	---

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	高知県安芸郡奈半利町	中村 茂生	NPO地域資源ネットワーク理事	魚梁瀬森林鉄道支線調査結果に基づく観光活用の可能性	平成26年1月24日
57	<p>講演内容</p> <p>旧魚梁瀬森林鉄道軌道跡の観光活用を「歩く」旅の観点から以下の構成で講演。(項番は講演時配布資料に準ずる)</p> <p>0. 「観光活用」とは・・・地域資源として「発見」「活用」から「観光客」の流入までの内容を定義づけ</p> <p>1. 観光資源としての旧魚梁瀬森林鉄道・・・国指定文化財としての本線活用の実績・支線調査の結果判明した特徴と魅力を詳述</p> <p>2. 日本における「歩く」旅を巡る状況・・・参加者の動向、全国組織とその活動・すみわけ方、などについて詳述</p> <p>3. フットパスのケーススタディ・・・フットパスの定義、事例紹介、日本フットパス協会について詳述</p> <p>4. 支線軌道跡—フットパスとしての可能性・・・各支線の特徴から、フットパスとしての活用に近い支線とその評価、メリットなどについて詳述</p> <p>5. 提案・・・フットパス研究会の設立に向けた具体的提案</p>				<p>研修成果</p> <p>参加者数:40名 (1) 森林鉄道に興味のある一般参加者にとっての成果 高知市・南国市を中心に中芸地域外からも多く参加いただいていたが、講演後の質疑応答の場では、サイクリングルートとしての活用など自分たちの活動と関連付けての積極的な発言が見られました。将来的な交流人口の拡大に向けた種を播くことができました。 (2) 中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会会員にとっての成果 フットパスという、従来旧魚梁瀬森林鉄道施設を地域の財産として活用してきた方法論からすると全く新しい視点からの提案を受け、当会の会員にとっては今後の参考になる成果がありました。早速、平成26年度におけるフットパスをテーマにしたツアーの開催が検討されています。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	からつ夢バンク	佐賀県唐津市	①鯨本あつこ ②養父信夫	①離島経済新聞社 代表取締役 ②九州のムラ出版室「九州のムラ」編集長	シマ×ムラ×若者を切り口とした持続的な地域づくり	平成25年10月5日
58	<p>講演内容</p> <p>鯨本氏は、大量の情報の中から島の良さを島外の人知ってもらうために、「離島」をキーワードとしたウェブページを創設し、島の人では気づかない魅力を外からの視点で紹介、島の課題は日本の課題でもあり、島を考えることで日本を考えることにつながると話す。</p> <p>養父氏は農村の衰えを実感、課題解決の糸口として20代～30代の女性に可能性を感じている。都市と農村を繋ぎ、外部から地域のスイッチをいれる役割を担う女性が出てきている。</p> <p>島と村の共通点として行政区域などが分かれておりまとりにくい、受入れのキャパシティの問題等があげられ、地域のDNAを掘り下げ特化し、「だれにでも」ではなく「あなただけ」のPRIによる効果が示唆された。</p>				<p>研修成果</p> <p>参加者数:120名 今回の参加者は農村、離島の人も多く、特にフィールドワーク時に直接講師と同じものを見ながら、感じながら、体験を共有する中で対話することにより、よそからの視点やその表現方法について、様々な気づきを得られた。また、講演会においては、「地域のDNA」「地域のアイデンティティ」「島の課題は日本の課題」など、記憶に残る言葉を知ること、各団体の活動を表現するうえで参考になったという意見が多かった。また、若者の視点、ヨソモノの視点を取り入れることの効果や、デザインの力についても学ぶことができた。また、その後の交流会や講師を含め活動を共有することで、県を超えたネットワークが広がった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	特定非営利活動法人とす市民活動ネットワーク	佐賀県鳥栖市	丸山 法子	一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 代表	未来につながるまちづくり「地域の居場所」を考える	平成25年10月9日
59	<p>講演内容</p> <p>第1部:「初めての居場所作り」 全国の13の最新事例をプロジェクトで紹介。事例を見るとき4つのポイントと事例の解説。</p> <p>第2部:「居場所を広げる地域との連携と、これからの活動の展開」 ・安心して暮らすための取り組み・地域コミュニティの役割・活動をひろげていくための方法の講義 ・グループワーク:地域の課題の洗い出しと解決策の討議 ・アドバイスまとめ。</p>				<p>研修成果</p> <p>参加者数:53名 市民活動団体、自治会、PTA、個人、学識者、行政など多彩な参加者が集まり、活発な意見交換がなされ、鳥栖地域での課題などが浮き彫りになった。空き店舗等の利用だけでなく、ラジオ体操の後の立ち話や、移動販売でのやり取りも居場所であることなど、柔軟な発想と連携の必要性を再認識した。これにより、大学とNPO、NPOと行政など新たな連携が2組生まれ、団体同士の既存のネットワークに大学や行政が加わり輪が一層広がった。 個人参加者は茶飲み会などができる場所からはじめ地との関係があった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	食・農・ecoらし・マイレージalliance	熊本県熊本市	中田 哲也	農林水産省大臣官房統計部・農学博士	産地見学とフードマイレージを活用した効果を通して、ひご野菜の魅力を知る	平成25年12月23日
60	<p>講演内容</p> <p>テーマは「フード・マイレージ(FMと略)から伝統野菜を考える」。</p> <p>まず、そもそもなぜ？FMという考え方が生まれたのか？を日本の食を取り巻く現状の問題点から講義が始まった。日本人の食生活の大きな変化、外食傾向の増加、流通の広域化、栄養バランスの変化が挙げられた。それに基づいて、日本人の食は多くを海外からの輸入に頼っていることが考えられる。食糧自給率の低下によって海外からの輸入がもたらす地球規模の環境問題が、FMの考えにつながっていくことが明確にされた。例題になるメニューを使って、伝統野菜・国内産・輸入食材を使用した3つのパターンをFMとCO2の排出量を具体的に数値化してみる。数値化することで産地評価の効果が明確にされた。FMの考え方を基にすると、地元に残る伝統野菜の評価も高まり、食材を選ぶときに心がけることで環境にも貢献することができる。また、全国的にも広がっている伝統野菜の復活や消費拡大への取り組みに注目すると、自給率の向上や環境型社会へのシフトにも貢献することができる。</p>				<p>研修成果</p> <p>参加者数:22名 参加者は、会員、農業高校生、学校栄養士、農家、青果業者、大学関係者、飲食業者。 講座の前にひご野菜の産地見学を行った。そこでは初めて触れるひご野菜や、それを守る農家との意見交換で親しみや理解を深めることができた。特に水前寺もやしの見学では正月の雑煮に使われるために、「今後も絶やしてはならない食材」と実感した人も多かったと思う。ひご野菜に触れたことで初めて聞くFMの定義もわかりやすく、具体的な数値を示すことで伝統野菜の生産、地元で消費することの重要性を認識することができた。受講後の意見交換では「産地表示だけではなく、FMやCO2の数値の表示をすることで消費者に訴えることができるのではないのか」「他県でも伝統野菜の普及活動が活発であることを知り、熊本ももう少し力を入れたらもっと魅力あるまちづくりにもつながるのではないのか」など活発な意見が出た。</p>	

平成25年度 地域づくり団体活動支援事業実績(地域づくり団体)

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
61	天草倶楽部	熊本県上天草市	①竹本 慶三 ②岡田 敏代	①佐世保市商店街連合会 会長 ②NPO法人「ネット八代」代表	世界一の天草(しま)おこし!!やるばい基調講演	平成26年2月22日 平成26年2月23日
	講演内容			研修成果		
	<p>・基調講演のテーマは『「まち」を元気にする』。佐世保商店街地域は、大型ショッピングセンターの出店や中心街の高齢化などにより危機に直面する。対策として、「人が集まる出会いの場を作ろう」を合い言葉に、となりの商店街と協力し、佐世保市を巻き込んで、市民参加型のイベントを次々と続けることで商店街に人を集めることに成功。結果『日本一元気な商店街』と呼ばれるまでになった。</p> <p>・パネルディスカッションのテーマは「まちづくりとネットワークの築き方」。まずは天草地域、熊本他の地域と佐世保商店街の事例をそれぞれ紹介し、比較して、それぞれの問題点・今後の可能性についてテーマについて話し合った。講演聴衆者の質問への返答なども交え、活気のある場となった。今後、実際に天草地域に活用できるヒントとして「うちのまちの宝物を探しまち自慢をシェアおう。」「お互いまめに連絡を取り合うことが大切。」など様々なアイデアが出された。</p>			<p>参加者数:100名</p> <p>・基調講演、パネルディスカッションを通して、まちづくりのノウハウを学び、天草地域での町おこしの気運の醸成に繋がった。今後は竹本氏の「まずは自分がワクワクして楽しみ、人のつながりを大切に」をモットーに粘り強く地域活性化に取り組み、「天草の人による、天草の方々へ、天草のための活動」に繋げていきたい。</p> <p>・交流会を通じて、天草地域内の各団体の繋がりを強めることが出来た。また、熊本各地域との情報交流で他の地域との繋がりを強化できた。今後もそれぞれの地域を知り、自分たちの地域を知り、協力し合うことで熊本県内の実りある活動に繋げていきたい。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
62	玉東町ふるさと勉強会	熊本県玉名郡玉東町	米澄 邦夫	中澄会 会長	史跡めぐりと「論語教室」	平成25年11月17日
	講演内容			研修成果		
	<p>中国古典の歴史や訓を話してもらい、現代でも使われている論語からの言葉や訓の解説に入った。熊本県の小学校や地域で教室や塾が開かれて、論語の普及や訓の必要性が拡がりをみせている現状を話された。訓に基づいた紙芝居もあり、わかりやすく説明された。</p>			<p>参加者数:45名</p> <p>温故知新・・・など論語から出た現代でも使われている言葉の解説で興味を与え、また社会で必要な「仁、礼、義・・・」など、人間の心や生き方に多少なりと納得を引き出せた。</p> <p>紙芝居で、子供達は真剣に見ていた。親子で会話が増えたりした子供教室への参加についての質問もあった。</p>		